

会 議 録

- ・ 会議の名称 富士川町介護保険運営協議会
富士川町地域包括支援センター運営協議会
(合同会議)
- ・ 会議日時 令和5年10月26日(木)午後7時30分～午後8時45分
- ・ 開催場所 富士川町役場 1階会議室 101・102・103
- ・ 出席者 委員11名(欠席者3名)
事務局5名(うち1名サーベイリサーチセンター)
傍聴席0名

・ 運営協議会内容

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - (1) 第8期介護保険事業計画の評価について
 - (2) 第9期介護保険事業計画について
 - (3) その他
- 4 閉会

・ 発言内容

議事

- (1) 第8期介護保険事業計画の評価について
資料に基づき事務局から説明

< (1) についての質疑応答 >

委員：認知症対策の総合的な推進事業における認知症に関する相談窓口を知っていると回答した割合が目標値を大きく下回っている。周知不足が理由として妥当なのか。

事務局：目標値を設定した時点と、ニーズ調査の対象者が異なっているので数値に乖離があると思われるが、引き続き検証を行う。

委員： 介護予防訪問リハビリテーション事業の第8期実績値について令和4、5年度の利用量と利用者数が0となっている。訪問看護の実績値が上昇しているにも関わらず、こちらが減っているのはなぜか。

事務局： 介護予防の該当者は訪問ではなく、通所のリハビリに行かれている方が多いのが要因と考えられる。リハビリ系の通所の事業者自体、増えている。そのあたりが原因と思われる。

委員： 参考までに、ニーズ調査の調査人数と回答率を知りたい。

事務局： 60歳以上の町民1000人を対象に書類アンケートを配布。回収数が632件で63.1%の回答率となっている。

(2) 第9期介護保険事業計画について 資料に基づき事務局から説明

< (2) についての質疑応答 >

委員： 1つ意見として、計画において多くの事業を挙げているが、実際、実行ができるものなのか、実行できたとして、どれだけの成果が上がってくるのかを考えた場合、疑問に思う。第8期計画の実績の説明の中でも実績0という部分もある。

施設側の人間として、個人的な感想として、この活動実態が見えず、計画を立てて終わりになっている印象がある。

これら全ての事業は到底やりきれないと思うので、事業のスクラップアンドビルドを進めて、利用者のニーズとの摺り合わせを進めていくべきである。

委員： 地域包括支援センターの存在を知らない住民が多い。名称をもっと分かりやすいものに変更すべきではないか。

また、孤独死する高齢者が増えているのを実感している。独居の方の見守りを強化していく必要性を強く感じている。介護の更新等で包括支援センターに出向いたりする機会がある場合は良いが、そうでない方をカバーしていく仕組み作りが重要である。

(3) その他

○総括

委員： 9期の介護保険計画が形骸化しないように、住民が主体的に考えて行動できるような機会を増やしていくべき。事業に対する町の職員の注力と細やかな配慮が必要になる部分。他の市町村に比べてサービス給付額は抑えられてきているので、原因の分析を進めてもらいたい。

審議の中でも出てきた、地域包括支援センターの認知度の向上は、住民がどんな支援を受けるかの選択肢を検討する上で重要な要素になる。周知について、これまでの手法と変えていく必要がある。

9期の介護保険計画の中でICTの利活用がある。個人情報の共有は、地域包括ケアシステムを作っていく上では重要だが、責任の所在の問題が出てくる。取り扱いには慎重になるべきである。結果が伴うような計画作りを心がけてもらいたい。

以上

令和 5年 11月 15日